

会報 なかさと

E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会
 発行責任者 石川 諒一
 編集事務局 皆川 汪
 TEL 0294-70-8005

中里学区人口 R2.8.1現在
 世帯数 460
 総人口 1076
 男 524 女 552

中里学区コミュニティ推進会の行事について

石川諒一コミュニティ推進会会長に聞く
 いっこうにコロナ感染が収束せず、最近では茨城県内でも県北地区、ひたちなか市、那珂市、東海村、常陸太田市などでも、毎日のようにPCR検査陽性者の発表があり、いつか自分も感染しないかと警戒し毎日不安な日常を過ごしていることと思います。



中里学区コミュニティ推進会としても、このコロナ禍のなか、今後の行事の開催について検討中ですが、現状では合同体育祭、ふれあい祭りについては、感染予防が難しく中止の判断となりました。また敬老会についても、日立市より全コミュニティ推進会に中止の通達があり、市より対象者全員に記念品を贈り、式典は中止となりますが敬老者へ敬意の気持ちを贈ります。中里学区コミュニティ推進会では「海をいただく」のテーマで全員対象者に缶詰セットが贈られます。その他、文化祭については開催の方向で検討中ですが、感染状況により再判断となります。

今月から中里小・中学校の合同校舎の建設に係る周辺工事が開始され、10月からは校舎建設の直接工事も開始されます。昨年の台風19号による水辺空間とその周辺被害の工事も秋までには終了見込みですが、学校校舎建設の資材置き場として水辺空間は利用します。そのため、新校舎完成頃（令和3年秋）が水辺空間利用可能な時期となります。新校舎完成し子どもたちが更に元気に勉強でき、自然豊かな風景で生長できることを地域で見守っていきましょう。

中里産の菊の花をいただきました

元地域おこし協力隊 安瀬 年勝氏

盆の休暇に入る10日（月）に、元地域おこし協力隊の安瀬年勝氏より、大量の菊の花をいただき交流センターで各サークルの方に購入いただき、集まった売上金は「NPOなかさと」の運営費として活用させていただきました。安瀬氏は、一昨年から本格的に花作りをしており管理された花畑には、見事に菊の花が育ちびっくりに。主に花は盆用の生花として十王の道の駅に卸しているとの事、虫・病気の発生もなく農薬管理は？と尋ねると、興味深い回答を得たので皆さんの作物作りにも参考になるかと記載させて頂きます。菊の花の周囲は背丈の高い植物（一見トウモロコシ似）で囲まれていた。

ソルゴーのバンカープランツ効果

安瀬氏によると、ソルゴー（ソルガム）は、イネ科の一年草でモロコシの一種。主に4つの効果があり、第一はバンカープランツとしての役割、つまり作物に発生する害虫の天敵となる益虫を呼び寄せ、常に待機させておく場所。ソルゴーは特にナス類と組み合わせ栽培される例が多い。第二は暴風対策、背丈が高く丈夫で折れにくい。第三は、緑肥としての役割が期待できる。畑に動き込むと有機物を土壌に還元し、肥料を分解して微生物を繁殖させる。水はけや保肥力を高める効果も期待できる。第四は休耕地の雑草の発生を抑える役割も期待できます。また、種は安価で購入もでき発芽・成育力も強いので試してみてもいいかがでしょうか。



「働きやすい環境企業」として認定される

特別養護老人ホーム山水苑 理事長 関 國廣氏

日立市は、女性活躍や次世代育成支援などで国が認定する「えるぼし」「くるみん」などを取得した企業に奨励金を交付している。市内企業の働きやすい環境作りを後押しするのが狙いである。本年度、「えるぼし」取得の社会福祉法人山水苑（関國廣理事長）が日立市から初めての認定を受け表彰されました。山水苑は下深萩町に91床（ショート含む）の特別養護老人ホームを設置・運営、また滑川町、金沢町、水戸市ではデイサービス事業を展開中です。今後の計画で、日立市役所6号国道を挟んだ斜め前（鹿島町）に地上4階建ての「サテライト館」という名称で特別養護老人ホームを令和3年秋にはオープン予定である。

山水苑は150名の従業員のうち8割以上が女性で、管理職の6割が女性である。「えるぼし」認定基準の5項目を全て満たしている。

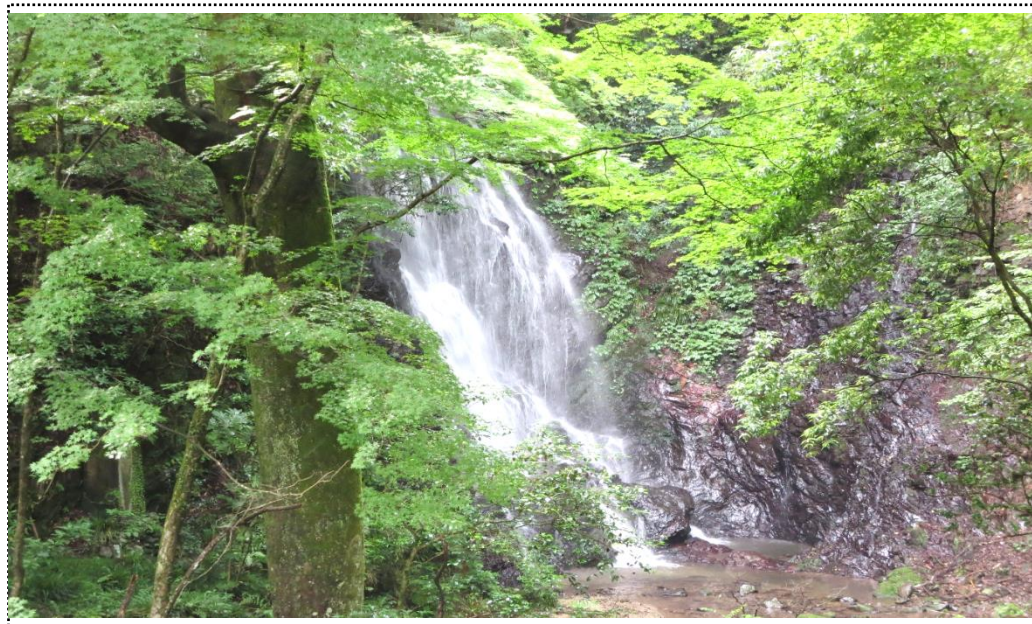
7月中旬認定式が、市役所で行われ小川春樹市長より目録が手渡された。小川市長より「今の社会に求められているものにいち早く取り組みんでおり、素晴らしい。互いにカバーし合える仕組みができていて」と称えられた。認定の喜びを関謹志施設長、中村淳一氏に尋ねると、「表彰はうれしい事であるが、毎年見直しがあるので維持・継続することが大変です」と話していたことが印象に残った。

（令和2年8月10日茨城新聞紹介）

令和2年度 日立市 働き方改革推進モデル企業奨励金交付式

令和2年7月17日（金）





清流おとる玉簾の滝と新緑

今年の7月、長雨が続き滝沢の上流にため込んだ水が踊るように跳ねていました。新緑の葉からはイオンを感じました。

撮影者 椎名 里見氏

感染対策を充分い行い、囲碁・将棋大会を開催

8月16日(日)交流センターにおいて、囲碁・将棋大会を開催、コロナ禍の中の大会を実施するため十分な感染対策を協議。参加者全員の体温測定、マスク装着・手指消毒は勿論、会場の換気対策・参加者の間隔確保を行い、勝負の長くなる囲碁は対局する者の中間に透明の遮蔽シートを設置し飛沫防止対策を行った。中里学区内の囲碁・将棋大会は今回で91回目、年に二回の大会が行われ、昭和51年8月から45年間継続している歴史ある大会であり、現行まで一回の中止もなく行われているため文化部(大津満夫部長)としても対戦を実施できる方法を検討。



中央に透明のビニールシートで遮蔽板作製し対局

ちなみにこの歴史ある囲碁・将棋大会、第一回が行われた昭和51年8月の優勝者は囲碁の部が吉成寿一氏、将棋の部が会沢肇氏である。昭和60年8月から(第21回)大会から文化部が主催者となり、第50回の記念大会優勝者は囲碁の部が石川諒一氏(現コミュニティ会長)、将棋の部が金沢忠蔵氏である。コロナ禍の中の大会実施であり感染対策に試行錯誤したが無事大会終了できたこと。参加者からは一日楽しく過ごせたと喜びの声をいただき安堵の想いである。



今回の入賞者 囲碁の部
優勝 石川 諒一氏 二位 野沢 芳男氏
三位 清末 武氏

将棋の部
優勝 深田 清二氏 二位 与沢 茂氏
三位 増子 保男氏



「助け合いなかさと」の運行継続の「ご支援・ご協力」ありがとうございます

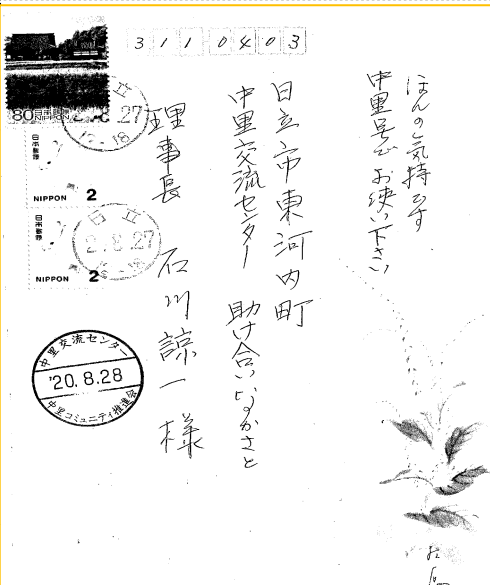
なかさと号の運行は、今年7月から12年目に入りました。利用者の皆様からは、無くてはならない存在として、たくさん感謝の言葉をいただいております。これらひとえに中里学区全世帯の皆様のご支援のおかげであります。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響や近年の諸事情により収入が減少し運営が厳しい環境にあります。そのような背景もあり、経費節減を図るため今後の運行は1台にしてご利用者のご協力をいただいております。令和2年度も推進員様のご協力により世帯負担金426世帯分、金額639000円を納入いただきました。

助け合いなかさと
理事長 石川 諒一



- ①元地域おこし協力隊 安瀬 年勝様
菊の花の売上金
 - ②ご家族がお世話になっております
匿名希望 現金
 - ③ほんの気持ちです。中里号でお使い下さい
山家ひめ子様 現金
- 合計金額 149100円 (①②③)



ご寄付者2名 原文でご紹介いたします。
お気持ち有効に活用し、皆様に愛される公共タクシーを目指します
助け合いなかさと 理事長 石川 諒一

前略、地域の足「なかさと号」の運営を支えて下さる皆様には心より感謝しております。一人暮らしの身にもなるちょっとした外出がとても困難になってきます。が、なかさと号のおかげで大した不自由も感じることなく、過ごしております。

さて、先だって政府より特別定額給付金なるものをいただきましたが、コロナのご時世で買い物などにはあまり行きませんし、他に欲しいものも特にありませんのでどの様に利用するのが良いか考えあぐねておりました。人伝えに聞くところによると、中里地区の人口も減ってきてなかさと号の運営も厳しい状況になってきているとの事ですが、一人暮らしの者にとっては大切な交通手段として存続に支障をきたすことのないように、わずかではありますが、この給付金をつかって頂きたいと思っております。

どうぞ、宜しくお願いします。

匿名希望 中里住民より